

平成25年度学力向上プラン(案)

日田市立東溪中学校

学力向上推進計画

1 学力現状

平成24年度学力調査結果(1月実施分):正答率を入力
 新中1(日田市実施学力調査)

平均正答率	国語	算数	理科	社会
本校	80.1	77.3	78.7	72.2
本校全国比	103.9	112.2	108.4	101.7
日田市	79	75.7	77.9	72.3
日田市全国比	102.5	109.9	107.3	101.8
全国	77.1	68.9	72.6	71

新中2(日田市実施学力調査)

平均正答率	国語	数学	理科	社会	英語
本校	75.7	70.6	68	60.4	63.9
本校全国比	106.3	106.0	108.6	95.6	108.7
日田市	73	64.6	58.4	59.5	60.9
日田市全国比	102.5	97.0	93.3	94.1	103.6
全国	71.2	66.6	62.6	63.2	58.8

新中3(日田市実施学力調査)

平均正答率	国語	数学	理科	社会	英語
本校	73.6	64.7	76.4	62.3	64.7
本校全国比	112.2	104.0	125.5	109.3	118.3
日田市	67.9	59.4	63.8	56.9	53.9
日田市全国比	103.5	95.5	104.8	99.8	98.5
全国	65.6	62.2	60.9	57	54.7

2 課題

- 【国語】
 ・「情報を分類整理し、意味段落を意識して読む力」や「人物の心情とその変化を推察する力」をつけさせる。(中2)
 ・「自分の考えや主張を分かりやすく正確に伝える力」をつけさせる。(中3)
- 【数学】
 ・「平面図形の用語や移動」「数量や図形などについて」理解させる。(中1・2)
 ・「数学的な見方や考え方を」つけさせる。(中3)
- 【理科】
 ・「観察・実験の技能」をつけさせる。(中2)
 ・「自然現象への関心・意欲・態度」を向上させる。(中3)
- 【社会】
 ・「資料を読み取る力」や「読み取ったことを活用し、特色をとらえる力」をつけさせる。(中2・3)
- 【英語】
 ・「外国語表現の能力(並びかえ英作文、場面に応じて書く英作文)を向上させる。(中2)
 ・「言語や文化(文法、基本単語)について」理解させる。(中2)
 ・「外国語表現の能力(場面に応じて書く英作文、3文以上の条件英作文、並びかえによる英作文)を向上させる。」

3 学方向上に向けた具体的な取組

1 学期	学校全体の取組			
	【具体的な取組】	【具体的な取組】	【具体的な取組】	【具体的な取組】
2 学期	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着(1時間完結型授業の徹底)。思考力・判断力・表現力の育成(応用・活用する力の育成)。	朝自習で授業の復習問題を解いたり、毎日ノートで授業の復習や予習をしたりすることにより、基礎・基本の定着を図る。 ・定期テスト1週間前にテスト勉強計画を立てさせ、テスト後は誤答ノートでやり直しをさせる。	板書プレートを活用した板書の構造化の取り組み。 ・朝自習(レビューのやり直し等)・朝読書の定着化 ・毎日の課題、週末課題の定着化 ・質問教室・誤答ノートの推進	新研究をつかって、ドリル学習に取り組ませる。 ・コラム学習の実施。
	【取組指標(測定可能な数値)】 基礎・基本に関する課題(家庭学習)に毎日取り組ませる。応用又は活用に関する週末課題に毎週取り組ませる。	【取組指標(測定可能な数値)】 ・毎日ノートの提出率85%以上を目指す。 ・誤答ノートの提出率85%以上を目指す。	【取組指標(測定可能な数値)】 ・毎日の課題、週末課題の提出率85%以上を目指す。	【取組指標(測定可能な数値)】 ・新研究ノートサポート36をつかって毎日家庭学習や朝学習に取り組ませ、提出率85%以上を目指す。 ・週末課題として、毎週コラム学習に取り組ませ、提出率85%以上を目指す。
3 学期	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着(1時間完結型授業の徹底、家庭学習の定着)。思考力・判断力・表現力の育成(応用・活用する力の育成)。	朝自習で授業の復習問題を解いたり、毎日ノートで授業の復習や予習をしたりすることにより、基礎・基本の定着を図る。 ・定期テスト1週間前にテスト勉強計画を立てさせ、テスト後は誤答ノートでやり直しをさせる。	板書プレートを活用した板書の構造化の取り組み。 ・朝自習(レビューのやり直し、プリント等)・朝読書の継続 ・毎日の課題、週末課題の継続 ・質問教室・誤答ノートの推進 ・習熟の程度に応じた指導(放課後等)	新研究をつかって、ドリル学習に取り組ませる。 ・コラム学習の実施。 ・校内実力テスト前、練習問題実施。
	【取組指標(測定可能な数値)】 基礎・基本に関する課題(家庭学習)に毎日取り組ませる。応用又は活用に関する週末課題に毎週取り組ませる。	【取組指標(測定可能な数値)】 ・毎日ノートの提出率90%以上を目指す。 ・誤答ノートの提出率90%以上を目指す。	【取組指標(測定可能な数値)】 ・毎日の課題、週末課題の提出率85%以上を目指す。 ・習熟の程度に応じた指導(放課後等週2回程度継続実施)	【取組指標(測定可能な数値)】 ・新研究ノートサポート36をつかって毎日家庭学習や朝学習に取り組ませ、提出率85%以上を目指す。 ・週末課題として、毎週コラム学習に取り組ませ、提出率85%以上を目指す。 ・校内実力テスト前、前年度の問題に取り組み、提出率85%以上を目指す。

※年度当初に1学期の取組を記述する。
 ※具体的な対策についての学期ごとの評価は、測定可能な数値や日常の取組を評価して次のように行う。
 ◎=100%以上、○=80~99%、△=60~79%、×=60%未満
 ※学期ごとに評価を行い、次学期の取組・取組指標を設定する。

4 年度末における目標値

平成25年度学力調査(1月実施分)目標値
 日田市実施学力調査

目標正答率全国比(全国を100と見て)					
中1	国語	数学	理科	社会	英語
	102.7	110.0	107.5	102.0	103.0
中2	国語	数学	理科	社会	英語
	106.5	106.5	109.0	102.0	109.0

5 平成25年度学力調査結果

中1(日田市1月実施分)

平均正答率	国語	数学	理科	社会	英語
本校	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
本校全国比	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
日田市	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
日田市全国比	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
全国					

中2(日田市1月実施分)

平均正答率	国語	数学	理科	社会	英語
本校	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
本校全国比	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
日田市	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
日田市全国比	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
全国					

6 学力補充のための重点的な取組

- 【授業における取組】
- 【家庭学習】
- 【春休みの課題】

平成25~27年度間成果目標

☆本校における目標値を設定する。
 ☆記載項目とは別に独自に指標を設定してもよい。

【達成指標】	H25	H26	H27
○基礎・基本の定着状況調査で全教科の平均正答率が目標値を超えている生徒の割合(中2)	84	85	86
○全国学力調査のB問題での平均正答率(中3)	103.5	104	105
○授業がわかると感じている生徒の割合(中2)	70	75	80
○(上記以外の学校独自指標)全国学力調査のA問題での平均正答率(中3)	105	106	107
【取組指標】	H25	H26	H27
○「活用型」授業の公開授業実施回数	1	1	1
○学校図書館を活用した授業実践回数	3	3	3
※ 全学級数→	4	4	3
○(上記以外の学校独自指標)言語活動の充実に向けた提案授業実施回数	2	2	2

校内研究推進計画

1 研究主題口

「思考力・判断力・表現力をはぐむ授業や活動の工夫・改善」
 ~言語活動の充実を通して~

2 研究仮説口

授業や様々な活動において、「自分で考えをもつ」「自分で考え、判断する」「考えや判断したことを表現する」などの言語活動を仕組んでいけば、思考力・判断力・表現力の育成につながっていくだろう。

3 具体的な取組(学力向上の観点から記述する)

- 言語活動の充実のための手だてとして、各教科・活動における共通指導項目の確認を行う。
- 授業の中で、自分で考える、グループで話し合う、全体で発表し合うなどの時間を確保する。
- 思考・判断・表現の意識を整理するため、考えさせること、教えること、練習することの区別をはっきりさせる。
- 思考・判断・表現する力を伸ばすため、「活用型」授業の研究や学校図書館の有効活用を通じた授業研究を行う。

4 学校図書館を活用した授業推進計画

- (1)校内研修
 ・学校図書館内の有効利用の研究(環境整備・生徒の利用方法等)…5月
 ・学校図書館の書籍を活用した授業づくりの研修(事例研究)…6月
 ・学校図書館を活用した提案授業…1月

(2)図書館を活用した授業取組月間

- 学校図書館の書籍と学校図書館を有効活用した日常における授業の推進(重点月:6月、11月、1月)

☆年間評価:授業実施学級数()のべ授業回数()回

5 年間計画(※「活用型」授業についての研修・授業実践については必ず記述する。)

1 学期	2 学期	3 学期
<ul style="list-style-type: none"> 4月…研究主題・研究仮説の設定 5月…研究計画・方法の策定、主題の分析、手立ての研究 6月…言語活動の充実に向けた(「活用型」授業)提案授業 7月…「活用型」授業の事例研究 学校図書館の工夫・活用の事例研究 	<ul style="list-style-type: none"> 10月…東溪小・東溪中合同の図書館教育の研修 11月…人権学習提案授業 12月…実践交流(「活用型」、言語活動の工夫、学校図書館の活用を含めた一人一指導案の作成(振り分け)) 	<ul style="list-style-type: none"> 1月…言語活動の充実に向けた(学校図書館を活用した)提案授業 2月…研究の反省・まとめ 互見授業(強化週間毎月第2週)
※互見授業強化週間(毎月第2週)	※互見授業強化週間(毎月第2週)	
☆評価 互見授業実施回数()	☆評価 互見授業実施回数()	☆年間評価 公開授業()回うち「活用型」授業()回